

## 草地学特論 (2単位)

担当者氏名 菅野 勉

### ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

世界の永年草地は地球の全陸地面積の約1/4を占め、20億頭以上の家畜を養っている。人類はそれらの家畜から摂取脂肪の約50%を、摂取エネルギーの約15%をいただいております。草地は人類にとって貴重な資源である。草地学はこの領域に関わる、多くの学問分野を内包した学際的分野である。本講義では食料生産という観点から草地の重要性を理解し、利活用方法を学ぶとともに、環境の一部をなす草地の役割・機能について理解を深める。

### ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

緑地植物 \_\_\_\_\_ 多面的機能 \_\_\_\_\_ 緑地土壌 \_\_\_\_\_ 緑地創出 \_\_\_\_\_  
 緑地保全 \_\_\_\_\_ 家畜飼養 \_\_\_\_\_ 飼料作物 \_\_\_\_\_ 飼料イネ \_\_\_\_\_

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	緑地と文明 (第1~2週)	1. 緑地の機能を学ぶとともに、緑地環境を文明の興亡との関連で考える。	◎本講義のねらいは草地を始めとする緑地環境の重要性を理解し、その利活用方法を学ぶことで、持続的な社会の構築に役立てようとするところにある。緑地環境の意義や利活用についての講師と学生の相互の論議を重視する。◎事前の学習により授業内容の理解に努めること。各講義では講義内容に関連するプリント等を配布するので講義後、それらを参考にして復習すること。
2	緑地の植物 (第3~4週)	2. イネ科植物, マメ科植物, 緑化用草花について学ぶ。	
3	緑地創出と維持 (第5~6週)	3. 緑地の造成及び管理・利用法について学ぶ。	
4	緑地を活用した家畜生産 (第7~8週)	4. 緑地を活用した家畜の放牧技術や公共草地の活用方法について学ぶ。	
5	熱帯草地 (第9~10週)	5. 熱帯における草地管理法及び放牧管理法について学ぶ。	
6	飼料作物 (第11~14週)	6. 飼料作物の栽培と利用について学ぶ。	
7	飼料イネ (第15週)	7. 飼料イネの品種や栽培法を学ぶ。	

### ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

緑地環境学 (第2刷) / 小林裕志・福山正隆 (編) / 文永堂出版 (2002)

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

目で見える 飼料作物のすべて/山下太郎編/デーリィマン社

### ◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

毎時間講義中に行う質疑応答やディスカッション等により総合的に評価する。

### ◆オフィスアワー

質問等があれば随時メールにて受け付けます。

### ◆その他受講上の注意事項

講義中での積極的な発言を求める。隔週で2講義ずつの講義となるため、上記進行表の各テーマ2週分が1日の2講義に相当する。